

子どもの

「書く力」を科学する



なぜ「書く」ことは難しいの？

「書く」という行為は、単なる手の動きだけではないんです。脳と体が連携する非常に複雑な動きが必要です。今回は書くことに必要となる3つの機能をみていきましょう。



3つの機能

① 認知機能

文字の形を認識し、どこにどう書くかを計画する司令塔の役割を果たします。具体的には以下の能力が必要になります。

- ・文字の形を正確に認識する力
- ・文字の配置や大きさを把握する力
- ・書きたい文字を一時的に記憶する力



② 運動機能

文字を書くときに良い姿勢を保つ力や、指先を細かく思い通りに正確に動かす能力が必要になります。目で見た文字を正確に真似する力も必要になります。



③ 感覚統合



筋肉や関節の動きを感じとる感覚や鉛筆の質感や紙の表面を感じ取る能力によって力の調整を行います。

3つの連携から**書く力**が生まれます！

書きにくさの評価

- (1) 姿勢の不安定さ
- (2) 筆圧の調整が苦手
- (3) 運筆のコントロールが難しい
- (4) 文字の認識・記憶が困難



どの部分に苦手さを感じているかをまずは見てあげてください。

おすすめの遊び

体幹を鍛えるあそび

安定した文字は、安定したカラダから！まずは大きな筋肉を使い、書くための土台を作りましょう。

- ・動物歩き
- ・バランスボール遊び
- ・遊具遊び



微細運動を促すあそび

鉛筆をうまく扱うには、指先の器用さが不可欠です。

- ・粘土、スライム遊び
- ・シール貼り、ビーズ通し、ネジ遊び
- ・折り紙、新聞破り
- ・うちわ、泡立て器での遊び



太い筆記具から始めたり、紙ではなくダンボールに書く体験もいいですよ○

